

PET サマーセミナー 2012 in 信州 印象記

絹谷 清剛

Kinuya Seigo

2012年8月31日～9月2日の3日間にわたり、松本市において、相澤病院PETセンター小口和浩先生を大会長とし、約450名の参加者を得て標記セミナーが開催されました。今回は、2008年の裏磐梯（山口慶一郎大会長）以来、久しぶりに大会開催ホテル（美ヶ原温泉ホテル翔峰）において泊まり込みで行われました。今回のテーマは、「Return and Forever～手を携えて未来へ～」です。その真意は、“PET夏の学校”時代に信州白馬で開催されており、いわばPETサマーセミナー発祥の信州に戻ってきたということと、合宿形式という昔ながらの方法で、職種を越えて、メーカーの方とも忌憚なく語り合うということです。

さて、セミナー内容の説明については、私の出席したところのみとさせていただきます。出席できなかった部分はタイトルのみ紹介いたします。

初日は、セミナー本体とは別にGE（GEヘルスケア・ジャパン(株)）ユーザー会から開始されていますが、当日の午後1時にJR松本駅に到着した私は、GEユーザーであるにもかかわらず、徒歩で松本城へ行きました。レプリカではないホンモノの天守が残っている国宝のお城ですから、見ないわけにはいきません。小ぶりな城ですが良い雰囲気です。城から出て、信州名物おやきを食べつつ会場にチェックインしました。だれと相部屋かなと調べてみると、私と同じ大学の滝淳一先生と、もうお一方は、2010年にサマーセミナー実行委員長をされた

岡山画像診断センターの加地充昌先生でした。おそらく、2013年にセミナーを主催する私が、大会運営の情報を加地先生から得ることができるように、小口先生が配慮してくださったのだと思いますが、加地先生と肝心の話をするのもなく3日間が過ぎ去ってしまいました。

セミナーは小口大会長の開会宣言に続き、第1会場でワークインプログレス（WIP）と、第2会場で化学薬学シンポジウム「PET薬剤の理解のために—PET医師のための科学・薬学の時間」で開始されました。WIPは、薬事承認を得て近々福島県に導入予定であるシーメンスPET/MRIの紹介と、各社の最新情報の提供をしていただきました。いつものことながら座長の山口慶一郎先生の語り口と、菅野巖先生のおつきこみを、楽しく聞かせていただきました。（株）島津製作所は食品放射能測定装置をWIPで紹介されていましたが、PETサマーセミナーにはそぐわないという複数の意見がありましたことを敢えて申し添えさせていただきます。

本セミナーの花、夜の学校は“臨床”“看護”“科学薬学”“技術”の4会場に設定されました。すべての職種の方々が、有益に過ごせるようにという小口先生の考えに基づいたものかと思えます。私は、来年主催することもあり、看護の学校に参加しました。ここ数年管理仕事に追われて臨床PET現場を離れていることもあり、話されている内容を新鮮に感じました。来年の看護セッションのテーマを何となく考えて出席したのですが、その考えに正にフィット

するような気がいたしました。

2日目はスペシャルシンポジウム1「合成装置：FDG以外の薬剤を使いたい」から参加しました。背景にある原則論を話していただいた千田道雄先生、O-157 浅漬け食中毒を注意喚起の材料にした合成現場の注意点について話していただいた脇厚生先生、メチオニンを先進医療で行うために朝令暮改に振り回される苦しみを話していただいた久下裕司先生、苦労・工夫を重ねてPIB-PETを立ち上げた豪腕、横山邦彦先生のオールキャストの後に、座長 伊藤健吾先生曰く、「うーん、なんだか、ますます新しい薬を始めるのが難しいと感じた方が多いでしょうか」と冗談半分、本音半分。この時間、第2会場は臨床シンポジウム2「心筋PETを実践するための基礎知識～検査準備から画像評価まで」。サルコイドーシスへの適用拡大がありましたので、盛況であったはずです。

ランチョンセミナーは、次期大会長としてPET核医学分科会常任役員会に出席していたため割愛しました。午後は、臨床講座1「IgG4関連疾患」と臨床シンポジウム「炎症疾患へのFDG-PET/CTの利用」を受講し、IgG4関連疾患の立役者である信州大学 川茂幸教授の話を知識アップとして拝聴しました。シンポジウムは炎症疾患におけるFDGの意義を、皆さん深く考えているなーと認識しながら拝聴しました。

さあ、2日目の勉強は終わりです。松本城、県の森～松本市美術館観光バスツアーに出掛ける方々、温泉に早々につかってビールを飲む私、それぞれの時間を過ごした後、メインイベントの懇親会に突入しました。懇親会前に、日中韓核医学会議への参加要請が小須田茂先生からありました。プログラム集には日中韓核医学会議と書かれていましたが、我々から言うときには日中韓核医学会議というべきかと常々思う次第です。その後、例によって延々と乾杯。宴半ばで、地元のアマチュア有志による和太鼓の演奏があり、やんややんやの拍手でした。私の頭の中は、宴会開始までは来年のプログラム内

容構想で一杯でしたが、和太鼓演奏以降は懇親会の催し物を何にすべきかで頭が一杯の状態になりました。

最終日は、8時から全体会議が開幕しました。次の時間帯は、臨床講座2「アミロイドーシスの臨床と画像」と一般演題「看護・技術・他」の並列です。私は、信州大学 池田修一先生のアミロイドーシスを受講しました。びっくり！一旦組織に沈着したアミロイドは二度と減らないのだと思っていましたが、インプットがなくなると徐々に除去されていくそうです。もしかすると、アルツハイマーもリバーシブルにできる時代がくるのかもしれませんが。最後の時間帯は、臨床講座3「フィルムリーディング東西対抗バトル・ザ川中島」と称する読影合戦、スペシャルシンポジウム2「メディカルツーリズム：世界の中の日本」、スペシャルレクチャー「治験や高度医療としてのPET検査・通常のPETとどう違う？」の3つでした。小口先生は本当にアイデアマンだなと思います。東西バトルは、僅差で西軍の勝利でした。メディカルツーリズムでは、WEBテレビを使って在バングラデシュ日本大使館勤務の齋木都夫先生がクウェート在住時のメディカルツーリズムの世界現状を話してくださいました。

以上、大成功のうちに2012年PETサマーセミナーは閉会となりました。2013年は、金沢市で金沢大学と大学病院敷地内のPET施設である金沢先進医学センターの共催で開催されます。8月23日(金)～25日(日)の3日間にわたって、JR金沢駅前にあるホテル日航金沢で、「PETサマーセミナー2013 in 百万石」と銘打って行います (<http://www.congre.co.jp/pet2013/greeting.html>)。加賀百万石の礎を築いた前田利家は、“槍の又座”の異名をとるかぶき者であったと伝承されています。我々はPETという槍を持って、金沢市で新しい纏を身につけて、医療界のかぶき者になりましょう。皆様にお会いできることを楽しみにしております。「PETは医療界のかぶき者だ！」

(金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)